

令和5年5月定例記者会見要旨(令和5年4月28日)

1. 今年度の市政に対する有福市長の意気込みをお聞かせください。

このたび、坂出駅周辺再整備基本構想を策定いたしました。

坂出駅周辺再整備基本構想は、中心市街地におけるまちづくりの方向性を示すことで、本市が抱える地域課題の解決と本市がめざすまちづくりの将来像の実現につなげるものであり、子育て世代をはじめ多様な世代が日常的に集い交流し、幸せを実感できるような居場所づくりや、居心地の良いウォーカブルなまちづくりを積極的に展開してまいります。

本構想の策定にあたり、市民や高校生、市内就業者を対象に「アンケート」を実施し、多くの方々からご意見をお聞きしました。また、市内の高校生を中心としたワークショップ「さかいで未来会議」を9回開催し、高校生の目線から将来の坂出駅前複合施設や坂出緩衝緑地について考えていただきました。これらの意見や提案を、さまざまな分野の専門家や有識者から構成する「坂出再生会議」において検討を重ね、基本構想を策定いたしました。

中心市街地再生については、「みんなの"ココチよさ"が かなうまち ～まちをひらき、未来をひらく～」をキャッチフレーズに、

- ・心地よく過ごせる「市民の居場所」づくり
- ・「歩いて楽しいまち」の実現
- ・「市民との共創」によるまちづくりの推進

の3つのコンセプトを設定いたしました。

中心市街地の基本的な考え方と再生戦略として、6つの拠点となるエリアを定め、そのエリアの方向性を示しております。

坂出駅前エリア、坂出緩衝緑地エリア、西運河入船エリア、商店街エリア、坂出人工土地エリア、旧市立病院跡地エリアの6つのエリアのうち、坂出駅前エリアと坂出緩衝緑地・西運河入船エリアを重点地区と定め、まずは重点地区において魅力の創出を行ってまいります。次に2つの重点地区を結ぶ導線に滞留空間を生み出すことで、にぎわいとつながりを強化するとともに、生み出されたにぎわいを各拠点に波及させ、まち全体が有機的につながり、様々な回遊性がエリア間に生まれることで中心市街地の再生を図ります。

坂出駅周辺再整備の考え方として、駅前空間の再編では、「まちのリビング」を実現するために駅北側と南側で役割分担をおこない空間の再編を図るという考えのもと、駅前空間においては、公共交通等の車と共存しながら、人を中心とした空間へ再編を図ることで、様々な人が心地よく過ごせる「居場所」を生み出し、「歩いて楽しいまち」の中心となることをめざします。

また、中心軸や坂出人工土地等の周辺エリアとの連携や波及効果を生み出すために、既存の駅南側の人の流れを駅北側に引き込む必要があることから、駅北側と南側で役割分担を行うとともに、駅北側に拠点施設を整備します。

拠点施設整備では、図書館機能を核とした複合施設とすることで様々な人が訪れ、活動できる場を生み出すという考えのもと、坂出駅やバス等の公共交通を利用する多くの人を引き込み、利用してもらえる場とすることで、坂出駅前エリア内および周辺エリアへの波及効

果を生み出す場といたします。

多様な使い方が可能な図書館機能を核とすることで、子どもから高齢者まで様々な世代にとっての学びの場や高校生が放課後を過ごすことができる場を生み出し、誰もが気軽に立ち寄れる「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の実現につなげてまいります。

また、市民や民間事業者等、多様な主体との連携や協働により、魅力ある持続可能なまちづくりに取り組むため、市民との共創として、市民との対話やワークショップ等の手法を用いることより意見やニーズを反映し、市民と共に検討を進めることで、将来のまちづくりの担い手やシビックプライドの醸成につなげてまいります。

そして、民間との共創として、人々が訪れたい魅力ある場の創出のために民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を最大限活用してまいります。

現時点における整備スケジュールの案といたしましては、今年度に整備水準の検討及び公民連携事業者の選定、令和6年度に企画・設計、令和7年から8年度に建設を行い、令和9年度に供用開始となる予定です。

全てのエリアをこのスケジュールで完成させることは難しいと考えておりますが、市民の方々の意見や民間事業者からの提案を受けながら、事業を進めてまいりたいと考えております。

2. 坂出市では初の取り組みとして、今月と来月で「公共交通無料デー」を実施していますが、これまでに3回実施して得られた手応えや反省点、利用者からの反響などがありましたらお聞かせください。また、それらを踏まえて今後も引き続き実施していくのかなど、わかる範囲で教えてください。

これまでバス等を利用したことがないかたもおられると思いますが、公共交通は、1度利用してもらわないとその価値が分からないものだと思います。

今回の「公共交通無料デー」イベントは、バス等を無料で利用できるという魅力に加え、地域イベントとの連携や、バス乗車の際のスタンプラリーなど、「楽しさ」の要素を加えることで、これまで公共交通に関心のなかった市民のかたにも、公共交通に興味をもってもらうことを目的に実施しているものです。

これまで3日間実施した公共交通無料デーの利用実績としましては、対象路線の利用者数が、4月9日（日曜日）が671人、4月19日（水曜日）が829人、4月23日（日曜日）が738人と多くのかたに利用いただき、それぞれ1週間前の同じ曜日の利用者数と比較して、3.7倍、1.8倍、3.9倍と利用者数が上昇しています。

特に、坂出駅から瀬戸大橋・島しょ部を経由して、倉敷市児島まで向かう瀬戸大橋線においては、4月23日（日曜日）の無料デーで、1週前の4月16日（日曜日）と比較して、利用者が約7倍となり、島での観光や釣りなど、非日常的な利用が増えたとバス会社から聞いております。

路線バス瀬戸大橋線は、島民生活にとって必要不可欠な路線である一方で、路線沿線の人口は少ないため、島民の日常利用だけでは収益の確保が困難な路線です。今回のようなイベ

ントも含めたPRにより利用者数を増やすことで、生活移動手段の確保に取り組んでおります。

全体を通じて、バスの運行時刻の調べ方などについて、多くのお問い合わせをいただいていることから、今回のイベントで公共交通の利用方法を知っていただき、今後も必要に応じて公共交通が移動手段として選ばれる土台作りができたものと考えています。

また、公共交通の利用者増加に取り組むことは、地域公共交通を維持していくために役立つだけでなく、バス等でお出かけした先での消費喚起や、高齢者の外出機会の増加による健康増進、子どもが公共交通で移動できることにより保護者の送迎負担が軽減されるという子育て支援の側面など、地域活性化につながる多面的な効果が期待されます。

市民の皆さまから、「もっと無料の日を増やしてほしい」、「今後も実施してほしい」といった好意的な声をいただいていることから、今後も、地域活性化に寄与する公共交通として、今回の手法に限らず、試行錯誤しながら、効果的な公共交通の利用促進に取り組んでまいりたいと思います。